令和７年　１月　８日（水）後期後半開始集会

時空を超えて、縄文人から学ぶ

※オンラインでスライドを用いてお話しています。

１４日間にわたる冬休みが終了し、本日から学校が再開しました。後期後半の始まりです。ここでは、「時空を超えて、縄文人から学ぶ」というお話をします。

現在、皆さんが観ているスライドの左下に写真がありますね。この写真は昨年１２月の２年生・東京校外学習で訪れた東京国立博物館で撮ったものです。縄文時代の土偶です。私は縄文時代に興味があります。小学生（三尻小学校）の頃、担任の先生から、「この学校は「三ヶ尻遺跡」とよばれている場所に立っています。縄文時代にも人々が住んでいたことが分かっています。」と教えられたことがきっかけでした。自分の家も遺跡の中です。ずっとずっと昔、同じところに縄文人が住んでいた･･･ワクワクする思いを持ちました。

縄文時代は、13000 年前から 2300 年前まで約１万年続いた時代です。旧石器時代は、獲物を追って、テントのような家を持ち、移住していましたが、縄文時代になると、四季に応じて、狩りをしたり魚を釣ったり、里山で木の実を穫ったりする生活を送りながら、ひとつところで「むら」を形成し、人々は「たて穴住居」に住んでいたのだそうです。定住することで生活も変わります。スライドの写真は土器です。土器を用いて、煮炊きなどを行いました。調理方法が多彩になったのです。ただ、この土器は煮炊きには向かなそうです。炎のような形です。縄文の人々の、家族や仲間の安全、海や山の豊かな恵み等を願う気持ちが込められているのだといいます。芸術家の岡本太郎さんは、東京国立博物館でたまたま観たこの土器に衝撃を受けます。芸術性を感じ取りました。「独自の個性、創造性を心の内に秘めていた、その得も言われぬ力強さこそが縄文人」と表現しています。

先ほど、私が生まれ育った土地が「三ヶ尻遺跡」だったというお話をしましたが、皆さんの学区には「前中西遺跡」があります。弥生時代の遺跡が中心ですが、縄文時代晩期の土器なども出土しています。住所で言えば、上之、末広三丁目・四丁目、箱田です。縄文人は、私たちと同じ土地に立ち、同じ風景を観ているのかもしれません。１万年も続く平和な時代を築き上げた縄文人から､私たちは時空を超えて学ぶこともあるのだと思います。

今観ているスライドの右側に女性のイラストがありますね。耳のところに何か付いています。耳飾りです。他にも、木の皮で縦横に編み込んだ「ポシェット」、ペンダントなどの装飾品も多く残っています。おしゃれをしたい、そんな思いは皆さんと同じです。また、仲間とともに協力し合って狩りを行い、獲物を分け合うことや、里山で栗やトチノミなどを育てることも行っています。まさに「共生」です。家族や仲間への思いも強いです。写真はなくなってしまった子供の手型足形の土板です。土板には小さな穴が開いています。ヒモを穴に通し、肌身離さず持ち歩いていたのでしょう。医学のない時代、大きな病気やケガをした人が１０年２０年と生き続けていることも分かっています。仲間を手厚く看護していた証です。相田みつをさんの詩に「うばい合えば足らぬ、わけ合えばあまる」とあります。全文読んでみて下さい。現代に生きる私たちが、縄文人から学ぶことに重なります。今年２０２５年の干支は「蛇」ですね。縄文の時代から蛇は、特に水の守り神だったようです。生活になくてはならない水を守る蛇を、人々は敬っていたそうです。今年１年、生徒の皆さんにとって、富士見中学校にとって、よい年であればいいですね。

熊谷市立富士見中学校長　田沼良宣